

麺需要中心に拡大

調理機会増加にも期待

家庭用つゆ市場は2025年度(25年3月～26年2月)、麺需要を中心に堅調な動きが期待できる。その麺需要は、高温、猛暑やはんメニューから麺メニューへの需要の移行が追い風になる可能性がある。麺以外の汎用需要も、物価高を背景とする家庭内での調理機会の増加が追い風になる可能性がある。サブカテゴリ別に見ると、麺用のストレートつゆ、白だしは拡大基調を維持しそうだ。濃縮つゆの動き次第で市場全体の活性化が加速する可能性もある。

コメの高値も好材料

つゆは主に汎用の濃縮つゆと麺用のストレートつゆ、汎用の白だしで構成されるカテゴリになる。秋冬期を中心に鍋つゆが定着し、煮物用などそのほかのメニュー専用つゆも浸透しているが、春夏期に関しては、鍋つゆを除き、濃縮つゆ、ストレートつゆ、白だしを中心としたカテゴリとしてとらえたい。

その市場を見ると、濃縮つゆが主軸になることには変わりはない。だが、その濃縮つゆはカテゴリ

として成熟化が進み、中期的にはストレートつゆと白だしが善戦する傾向にある半面、濃縮つゆが苦戦する傾向にある。

つゆの市場でも諸コスト上昇を背景に23年度、24年度と価格改定の動きが広がった。商品別に見ると、濃縮つゆ、その中でも大容量サイズを中心に値上げのマイナス影響が見られた。値上げが市場全体に及ぼした影響は判断しにくい。だが、全体としては、やや勢いを欠いた動きになっている。

ただし、24年度の市場は、その値上げ効果もあり、前年を上回る堅調な動きで推移した。ストレ

トつゆ、白だしが拡大基調を維持したほか、濃縮つゆも上期を中心に健闘した。猛暑、残暑を背景に、冷たい麺メニューを中心とする麺需要が需要や市場の底上げにつながったと考えられる。

現在も原材料コストを含むコスト高に直面している。コスト高とそれに伴う値上げなどの影響はやはり読みにくい。需要環境そのものは必ずしも悪くない。その用途、需要は麺需要と麺以外の汎用需要に大別できるが、麺需要、汎用需要ともに堅調に推移する可能性がある。

麺需要との関連でいえば、冷たい麺メニューへの関心が高まる可能性が高い。地球温暖化に伴いこの春夏期も高温が見込まれる。7月、8月の夏場は猛暑になる公算が、9月、10月の秋口も残暑が続く公算が大きい。

コメの高値も好材料かもしれない。高値が続く中で、パンメニューや麺メニューへの関心が高まるとの見方、ごはんメニューからパンメニューや麺メニューへの需要の移行が加速するとの見方も強い。つゆの麺需要もさらに拡大する公算が大きい。

汎用需要との関連でいえば、物価高に伴い節約意識がさらに高ま

り、外食・中食分野でのメニュー・商品の値上がりが続く中で、家庭内での調理機会が増加するとの見方がある。家庭内では基礎調味料やメニュー専用調味料とも競合する。基礎調味料を使った調理については、簡便意識の高まりが懸念材料になる。メニュー専用調味料を使った調理についても、メニュー専用調味料そのものの割高感が懸念材料になる。

基礎調味料、メニュー専用調味料にも懸念材料がある中、経済性と汎用性、さらに簡便性を兼ね備えた汎用調味料、つゆのカテゴリでいえば、濃縮つゆ、白だしへの関心が高まり、その需要が拡大する可能性は小さくない。

主要ブランドが焦点

こうした市場環境、特に需要環境の中で、メーカー各社はこの春夏期も商品、プロモーションの両面で積極的な提案施策を展開している。そうした提案が需要や市場の下支えや底上げにつながることに期待される。

主軸になる濃縮つゆに関しては、市場での主要ブランド、上位メーカー各社の主力ブランドの動向が最大の焦点になる。ミツカン